

## 透析患者支援へ 1千万円を融資

沖縄公庫、さうすウェーブに

沖縄振興開発金融公庫（譜久山當則理事長）は27日、挑戦支援資本強化特別制度（資本性ローン）に基づき、システム開発のさうすウェーブ（宜野湾市、前田憲社長）に1千万円を融資したと発表した。同社は、人工透析中の

患者にタブレット端末を活用して検査データなどを提供するサービス「ダイアライフ」を開発し、現在、県内2カ所の病院で試験運用している。来年年明けから本格導入する予定で、今後5年間で、全国60カ所の病院での導入を目指している。

さうすウェーブなどによると、国内の人工透析患者は31万人を超え、県内でも4200人近くおり、増加傾向にあるという。同社はダイアライフを通じて、患者の精神負担を軽減させ、満足度の向上を目指している。

## 透析時サービス 沖縄公庫が融資

宜野湾のソフト会社に

沖縄振興開発金融公庫（譜久山富則理事長）は10月27日、ソフトウエアの開発などを手掛けるさうずウエーブ（宜野湾市、前田憲代表取締役）に無担保無保証で自己資本とみなすことができる資本性ローンで1千万円を融資したと発表した。融資は同月22日付。

同社は、人工透析患者が治療時間中にタブレット端末で検査結果などの医療情報やインターネットを楽しめるサービス「ダイアライフ」の運用開始に向けた資金に充てる。

前田代表も透析患者で、治療時間を有意義に過ごせればとの思いからサービスを開発し、現在、県内2病院で試験運用中。来年1月からサービスの有料提供を始め、国内外の病院での導入を目指す。

同月27日、那覇市の沖縄公庫本店で会見した前田代表は「人工透析患者の満足度を向上させるサービスを提供していきたい」と話した。